

三つの病院で同時着工、同時竣工



アフリカ大陸南部に位置するザンビアの首都ルサカでは、基礎的な手術や検査を行う1次レベル病院の不足が喫緊の課題だった。「ザンビア国第二次ルサカ郡病院整備計画」は同国保健省が主要5地域の保健センターに手術室や入院施設を整備し、1次レベル病院に格上げする事業の第2期となる。カンヤマ、チャワ足が喫緊の課題だった。マ、チパタの3地区で病院施設の機能強化を図る工事を清水建設が担当。さまざまな制約条件を克服し三つの病院を同時に竣工させた。

ルサカには高度な医療サービスを提供するザンビア大学付属教育病院が存在するものの、不足する1次レベルの病院を同時に竣工させた。ルサカには高度な医療サービスを提供するザンビア大学付属教育病院が存在するものの、不足する1次レベルの病院を同時に竣工させた。

地上約25mの高架水槽が地域のランドマーク（カンヤマ病院）

ザンビア国 第二次ルサカ郡病院整備計画

ヘル病院の役割も担ったため、慢性的な混雑が発生し本来の医療サービスが提供できない状態だった。そこで同国保健省がルサカの5地域で基本的な保健サービスを提供する中核保健センターを1次レベル病院に強化・機能拡充することを計画。同国に無償資金協力を進めていた日本政府は国際協力機構（JICA）を通じて、2017年に先行プロジェクトとなるマテロ、チレンジェの2地区で1次レベル病院を整備した。

これに続き、残るチパタ、カンヤマ、チャワマの3地区で病院整備を行う2期工事が18年5月に始まった。三つの病院はRC造2階建てで、延べ床面積はチパタ病院が3288平方メートル、カンヤマ病院が延べ4101



部屋用途に応じて配色を工夫（出産準備室、チパタ病院）

チパタ病院では正面外壁に日本製のセラミックスタイルを採用。精度の高い施工品質を現地スタッフと共に実現した。技術を身に付けたスタッフはアフリカ各地のプロジェクトで引き続き活躍しているという。

平方メートル、チャワマ病院が延べ2671平方メートル。外来・入院患者棟などを建設し、必要な医療機材を整えた。各病院では頻発する停電によるエレベーター停止の影響を受けないよう、建物の上下階を重いすや医療用ストレッチャーで昇降可能なスロープを設置。また近隣諸国を含め識字率が6割程度のため、出産準備室の壁をピンク色にするなど、部屋用途に応じた色彩にも工夫を凝らした。

既存病院に隣接した敷地内で三つの病院の同時着工、同時竣工という工程、限られた敷地条件など多くの制約がある中で工事を展開。コロナ禍で6カ月間の工事中断を余儀なくされたが、スタッフ一丸で困難を乗り越え、21年1月に無事竣工を迎えた。各病院は竣工1カ月後に開業。連日多くの地域住民が来院し、既存病院と一体となって地域医療に大きく貢献している。

